**対象森林の現況写真の撮影について**

**１：エリアごとに、以下の写真を撮影すること。**

**森林の概要がわかる写真　　　外部から1枚　内部から1枚**

**タイプ区分が判断できる写真　２枚以上　　　※ 整備が必要な状況**

**２：タイプ区分の判断写真は、以下の点を留意して撮影する。**

**（１）地域環境保全（里山林保全）タイプ　（スギ・ヒノキ林、雑木林、その他）**

**主な樹種の生育状況、混み具合、下草の繁茂具合などを撮影する。**

**※ 林内の見通しがきかない、林内を歩けない感じが伝わるとよい**

**（２）地域環境保全（侵入竹除去）タイプ　（竹林が他の樹種に侵入している）**

**竹林が他の樹種からなる森林に侵入し、圧迫している状況を撮影する。**

 **※ ほかの樹種が枯れている、樹冠（枝葉）が少ない、竹の方が多いなどの状況**

**アズマネザサ（しの竹）に関しては、著しく繁茂している状況が必要となる。**

**※ なるべく高く、繁茂していて、見通しがきかない、刈りにくい状況**

**（３）地域環境保全（竹林整備）タイプ　　（過密で荒廃した竹林）**

**竹林が過密になり倒竹、枯竹なども生じている状況を撮影する。**

**（４）森林資源利用タイプ　（人工林、雑木林）**

**一定の蓄積があり、伐採搬出できる状況であることを判断できる状況を撮影する。**

**（５）森林機能強化（作業道）**

**作業道、鳥獣害防護柵を入れる箇所を、５０ｍに１か所程度とし、作業が必要な状況を**

**撮影する。**

**（６）関係人口創出・維持タイプ**

**申請内容を説明、補完する写真とする。**

**３：写真撮影位置**

**撮影位置を記入した図を作成する。**

　**位置図・活動計画図の作成方法について**

**＜位置図＞**

**縮尺：１／２万５千～１／５万地形図を原則とするが、縮尺が合致すれば道路地図、ネット地図等のコピーで可とする。**

**記載内容：近隣の主要国道、鉄道、学校など目標となるものを含む範囲とし、併せて方位、縮尺、申請箇所などを明記する。**

**＜活動計画図＞**

**地番記載のある図面を利用して、事業実施箇所のエリア別、活動タイプ別、年度別の関係がわかるよう調整し、必ず凡例を記載すること。（記載例を参照）**

**森林機能強化タイプにおいては、改修を実施する路網や鳥獣害防止柵を図示すること。**

**上記内容が明確に記載できる縮尺とする。面積測定用の図面と縮尺が異なってもかまわない。**